

## 歴史地理学会会長 服部昌之氏を悼む

本会会長服部昌之氏は、1998年9月以来、国立癌研究所附属病院に入院加療中であったが、去る11月21日（土）夜、逝去された。誠に痛恨の極みである。11月24日に執行された告別式において、本会では、常任委員長青木栄一氏が学会を代表して以下の弔辞を捧げた。



撮影：石井 實（1997年1月25日）

## 弔 辞

謹んで在天の歴史地理学会会長 服部昌之先生の御靈魂に申し上げます。

突然の先生の訃報に接し、ただただ驚きでいっぱいです。去る七月の歴史地理学会常任委員会では変わらぬお姿をお見せ下さいましたが、その後余りにも短い闘病生活ののちのご急逝、先生にはさぞご無念のことと拝察いたします。

服部先生は、京都大学大学院在学中以来、一貫してわが国古代の歴史地理学研究に従事してられました。昭和五十八年に刊行された学位論文『律令国家の歴史地理学的研究』は、条里制や古代の国郡郷里制などに関する精緻な実証的研究の集大成であり、景観復元論と地域論という二つの研究法を日本古代という時空間のなかに総合した、先生の長年にわたるご研鑽の結晶として、いまでも多くの人々に読み継がれています。

先生ははやくから、条里制研究において、条里地割と条里呼称法とを区別して論ずる必要性を提起され、また現地表面下に埋没している、いわゆる「埋没条里」の意義を力説されましたが、これら、先生の指摘された課題は、以後の条里制研究に大きな前進をもたらすきっかけとなりました。のちに、日本古代中世史学や考古学などの隣接分野が協力して、学際的な条里制研究会が組織され、服部先生がその初代会長に選出されましたのも、先生が、ひとり歴史地理学分野のみならず隣接分野からも厚い信頼を寄せられていたことの明証と思われまふ。

長くお勤めになった大阪府立大学から、關東の専修大学へ転じられてまもない平成五～七年度、先生は、歴史地理学会の常任委員長に選出され、次いで平成八年度からは本学会会長に就任されることとなり、まさに歴史地理学会の重鎮として、若手研究者の指導と育成

に情熱を傾けられました。学問に対する真摯な姿勢はそのままに、会務にあたっては常におだやかな暖かいまなざしを絶やさされず、包容力に満ちたお人柄によって、今日まで学会をリードされてまいりました。昨年度歴史地理学会は創立四十周年を迎えましたが、昨年会員に配布された『歴史地理学会文献目録、学会四十年の歩み』は、先生が常任委員長時代に企画され、先生自らが編集にあたられた記念すべき出版物であり、先生の歴史地理学会への大いなる貢献の一つとして長く記憶され、今後もひろく活用されてゆくものと信じます。

昨年度、佐賀大学で開催されました歴史地理学会四十周年記念大会におきまして、服部先生は「七・八世紀の地域問題」と題する会長講演を行われました。お若い頃より、東北地方などの周辺地域にも広い目配りを行っておられましたが、このご講演では、東北や南九州、東国など、いわゆる辺境地域の律令国家への組織・編入の問題が論じられ、先生の近年における学問のご関心の所在とそこに見通された諸課題が浮き彫りにされました。これらの課題に対する先生ご自身の解答を先生自らのお口から拝聴できないのは誠に痛恨の極みではありますが、『歴史地理学』誌187号に掲載された講演録を繰り返し拝読しつつ、今後も先生によって開拓された歴史地理学における地域問題に関する研究を一層発展させてゆくことをお約束したいと存じます。

先生のご功績を偲び、長年にわたるご指導に深い感謝の意を表するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

ここに、歴史地理学会を代表して、会長服部昌之先生の御霊前に弔辞を捧げます。

平成十年十一月二十四日

歴史地理学会常任委員長

青木 栄一